

私は在学中に阪神大震災のボランティアとその後の震災から立ち直る街づくりにかかわりながら、多くのことを学びました。何もいわないと何も変わらない、現状容認になる。市民一人一人がかかわっていく必要があるという考えは私の原点です。

#### ◆経済と環境をくっつけた経済環境局をつくりました

コンパクトで持続可能なまちづくりという点から環境面はもちろん財政面からも、負債を先送りしないという意味で持続可能な街づくりに取り組んでいます。

過去において尼崎は公害の街ともいわれました。「市内の環境の向上」と「地域経済の活性化や雇用の創出」を両立させ、進めていかなければなりません。だから経済と環境をくっつけた経済環境局をつくりました。アクセルとブレーキをいっしょにするのかともいわれましたが、結果的にうまくいっています。

尼崎には原発関連の企業も少なくありませんが、今の利益を確保することを責務とする経営者と、住民の命と将来の環境に責任を持つ市長では立場が異なると考えています。尼崎市では、産業団体と市が共同で「ECO未来都市あまがさき」宣言をしており、環境を重視した地域経済の発展という点で連携しています。その延長で、国が選定している「環境モデル都市」にもなりました。企業が太陽光パネルを設置した際の固定資産税を減免するなど、自然エネルギーの普及にも取り組んでいます。

#### ◆課題解決先進都市へ

尼崎はいろいろな課題を抱えています

尼崎は産業都市であると同時に労働者のまちとして発展し、地方から出稼ぎで出てきた人、在日朝鮮人、韓国人の方も多いため多様性のあるまちで、近隣の芦屋や西宮に比べ所得が高くない人も多いため。いわゆる自己責任論ではうまくいかない。「孤立から自立は生まれない」との考えのもと、アプローチしていく必要があります。これが信頼と分かち合いのまちづくりといえます。

地域ごとの見守り活動が必要です。ひきこもっている人をどうするか、プライバシーの関係もあり、情報共有が難しい現状があるが、生活困窮者自立支援法が来年4月から施行されます。「派遣村」をつくった湯浅誠さんが尽力した「パーソナルサポートセンター」の考え方が引き継がれています。いろんな人たちと連携して支援を充実させていきたいと考えていて、これに予算をつける予定です。

40年間人口が減り続けています。高齢化率も高く独居高齢者が多い。アスベスト被害もありました。また尼崎市の財政状況はいまだに大変厳しいものがあります。

課題は多いですが、逆に、課題解決先進都市となることを目指しています。ソーシャルビジネスの振興もそのひとつです。ソーシャルビジネスとは環境・地域活性化・少子高齢

化・福祉・生涯教育など社会的課題への取り組みを、継続的な事業活動として進めていくことです。これは雇用を生み出すものでもあります。若い人が何で飯をくって行くのか、スキルを磨くのか、「ビジネス」という点も重視しています。あわせて、人材育成として、兵庫県立大とソーシャルビジネスをテーマに連携し、地域の知の拠点事業を行っています。これは、学生が参加して、地域問題を解決できるのではないかと取り組みです。

尼崎をフィールドに課題解決をビジネスとして公募するビジネスコンペもはじめています。NPOと組んで、ソーシャルビジネスプランのコンペを開催しました。大切なのは企画のブラッシュアップ、磨いていくプロセスです。市職員も参加しています。職員も情報提供の中で自分自身の仕事の振り返りが行え、職場の意識改革効果も出ています。

ソーシャルビジネスなど、新しい取り組みを始めるときは、外から講師を呼び、市長室で幹部職員を集めて勉強会をやっています。ソーシャルドリンクスと名づけた飲み会もやっています。企画能力にたけた博報堂のスタッフやNPOの人材を市に招聘して進めています。

#### ◆市民自治、市民との対話、市民同士の対話

みなさん、パブコメで何かが変わったという経験があります？なかなかないのではないのでしょうか。パブコメは計画の最終段階でやられることが多い。抜本的な修正を伴う意見は反映できない。よって、もっと熟度の低い段階から市民の声を入れていく必要があります。

車座集会をやっています。フリートーク型はテーマ、対象者を特定せずに、参加者を公募して実施する車座集会です。ターゲット型は対象者を特定して、参加者を公募あるいは指名して実施する車座集会です。テーマ型はテーマをあらかじめ設定したうえで、参加者を公募あるいは指名して実施する車座集会です。詳しくは以下を

[http://www.city.amagasaki.hyogo.jp/welcome\\_mayor/020915.html](http://www.city.amagasaki.hyogo.jp/welcome_mayor/020915.html)

震災がれき対話集会はテーマ型といえます。尼崎市は受入の可否の態度を決めずに対話集会をやりました。当初は「説明会」を予定していましたが、がれき受け入れに反対する人から「受け入れありきだ」と言われ、可否を決めずに臨む対話集会を実施しました。これは論点整理に効果的でした。市民といっしょに考えることができました。

結局 国の方針が変わり、兵庫県下の自治体は受け入れ先に該当しないことになり検討を終了することになりましたが、この経験は財産になっています。

[http://www.city.amagasaki.hyogo.jp/23155/22138/033gareki\\_kentou\\_syuuryou.html](http://www.city.amagasaki.hyogo.jp/23155/22138/033gareki_kentou_syuuryou.html)

公共事業たな卸し委員会では3年間かけて、約1000に及ぶ市の全事業を審議しました。但し、公開審議を行うものは時間の関係で日に5~6事業ですが、それを選定するのも市民参加で行いました。こうして棚卸を行い、原則すべての事業を対象に、提案型事業委託制度を取り入れています。

あまがさき環境オープンカレッジでは、以前は市役所内に事務局があり、職員が事務局を担っていましたが、NPOが事務局機能を担うようになりました。駅前再開発ビルの空き

室を借り、土日オープン、駅前で人が集まりやすい、本屋備品、会議室の貸し出しも行われるようになりました。同じ経費でサービスが向上しています。

◆中学校給食とエアコン、きびしい予算制約の中で市民が納得しあうワークショップ

市民のみなさんはとくに教育に関心が高い。教育の環境整備について、「学びやすい学校の環境づくり」をテーマに、連続6回のワークショップを開催しました。ここには市長と教育長が必ず出席しました。

中学給食とエアコンが主のテーマで、これは一定の市の考え方を示した上で、市民の考えを聞く、全参加者が発言できる会です。車座集会と異なり、市長、教育長以外にファシリテーターをお願いして、ワークショップを通じていろいろな考え方の人が必ず自分の意見を述べる、自分と違う人の意見を聞きあう、というプログラムでやりました。情報共有とみんなが意見を出すことを重視しました。市の考え方を出して意見を出してもらおうワークショップです。

中学給食とエアコン、そりゃあ全部実現できればいいことはないけれど予算がない。予算の乏しい中、どうやっていこうかということで知恵を出し合ったのです。二項対立ではうまくいきません。違う立場の人たちにどう届く言葉を持つのかという問題意識が大切だと考えています。市民は顧客ではありません。いっしょに事情を共有して、いっしょにまちづくりを進めていきたいと考えています。